情報　No.3

らい菅

令和６年 12 月 13 日

愛教研専門局栄養教員部
担　当　　今井　恵都子

第 44 回　公立小中学校栄養教諭・学校栄養職員研究大会報告

11 月１日（金）、第 44 回公立小中学校栄養教諭・学校栄養職員研究大会が、今年度もハイブリッド形式にて開催された。大会主題「深めよう　心と体を育む食教育」の下、講演、実践発表、指導講話により充実した研究大会となった。今後の各校での食育活動の発展に向け、考えを深めることができた。

１　講演　「個別最適な食の学びを実現する-ナッジと ICT を生かして-」

講師　武庫川女子大学教育学部　教授　藤本　勇二　先生

ナッジとは、行動経済学から登場した言葉で、そっと後押しするという意味がある。楽しい、おいしいというわくわく感が、子どもの学びにつながり、子どもの学びが教師の学びにつながることを知ることができた。私たちが今行っている活動にもうひと工夫加えることで、子どもたちが学びたくなる状況を作り出すことができるため、ナッジと ICT を生かして、より充実した食育活動につなげていきたい。

２　実践発表　「学校給食の充実を目指した今治市の取組
～健やかな成長を支える学校給食の提供と地産地消の推進～」

今治市立立花小学校　栄養教諭　和田　由香子　先生
今治市立玉川中学校　栄養教諭　藤本　文　先生

市内の小中学生の身長体重から食事摂取基準を学期ごとに算出し、適切な栄養素が提供できるようにしていた。また、市内で同水準の栄養素が提供できるよう、鉄の早見表を作成するなど、情報共有できる資料が充実していた。さらに、地元シェフとコラボした学校給食や料理コンテスト等、様々な取組を行うことで、学校給食を通じて、子どもたちの健やかな成長を支えていた。

３　指導講話　「学校における食育の推進」

講師　愛媛県教育委員会保健体育課　指導主事　折井　智栄　先生

食育推進のためのカリキュラム・マネジメントを充実させるためには、子どもたちの実態把握が重要であり、実態を基に教育目標はじめ、組織の見直しを行っていく必要がある。

また、個別的な相談指導については成長曲線を活用し、行動計画を組織で共有していくことが重要であることが分かった。さらに、学校給食における食物アレルギー対応については、市町によって異なる対応内容について、しっかりと引継ぎをしておくことが何よりも重要であることを再認識した。

参加者アンケートより

【栄養教諭・学校栄養職員等】

○　日々悩んでいる鉄分、カルシウム、豆の摂取についてのこと、子どもの成長に合わせた栄養価の算出など大変参考になりました。

【養護教員、その他の参加者】

○　栄養教諭・学校栄養職員の先生方の目指されているところや日々の研究について学ぶことができました。今後も、児童や学校組織運営のために協力していきたいと改めて思いました。